

6年 総合的な学習の時間

大観の未来つなぎ隊！

～ 防災減災について考え伝えよう ～

ねらい

主に大観のまちの高齢者との防災減災における関わりを通して、安心安全な生活には、人と人とのつながりが大切であることに気づき、自分ができることや命を大切にする生き方を考え問い続けていくことができる。

軸となる体験

- (1) 大観のまちの防災減災について、災害を体験したり、被災地へ行ったりした方に話を聞き、防災減災の視点でまちを回ること
- (2) 防災グッズを実際に使ってみること
- (3) 学んだことを高齢者や全校生に伝えること



単元における言語活動

<もとめる①>

- まちの方から聞いた事実と感想をノートにまとめる。
- 大観校区調査での気づきや疑問を整理する。
- 活動ごとに振り返り、学んだことや感じたことなどを記録する。
- まちの高齢者にインタビューをする。

<もとめる②③>

- 災害から命を守る取組の原稿や資料を作成する。

体験を価値ある経験にする伝え合い

☆南海トラフ地震や豪雨災害などの自然災害により、大観のまちが受ける被害を知るなかで、どのような内容を大観のまちの方に伝えるかを考え合う。

1. 単元の目標

- 大観のまちで災害復興にかかわった人々の思いや願いが分かるとともに、自分や高齢者にとって必要な防災減災に向けた物と心の構えについて理解する。 <知識及び技能>
- 大観のまちの防災減災に向けての取組を調べ、地理的特徴や実情に合わせた防災・減災の在り方について整理、分析し、相手に応じて伝えることができる。 <思考力・判断力・表現力等>
- 大観のまちの一員として防災減災のためにできることを考え合い、命や人とのつながりを大切にす生き方について考え問い続けようとする。 <学びに向かう力・人間性等>

2 単元について

児童は、4年生時の総合的な学習の時間に『発進！発信！大観のまち守り隊！』に取り組み、高齢化が進む大観のまちの現状を知り、高齢者の方々と共に力を合わせて生きる大切さに気付いた。また昨年度の6年生から防災減災や平和に関する学びについて知らされていたこともあり、4月のオリエンテーションでは、「命について学びたい」、「自分の生き方を考えたい」、「大観のまちの人の役に立ちたい」などの思いや願いが出てきた。また児童と活動を計画する過程で、今後起こると予想される南海トラフ巨大地震に備えるため、阪神・淡路大震災、東日本大震災から学ぶことの必要性が共有された。主体的に防災・減災について学び、自分の命はもちろんのこと、まちに住む小さい子からお世

話になっている高齢者までの命も守りたいと思い始めている児童もいる。その一方、「自分は大丈夫だ!」「災害は自分からは遠い話だ。遠い話であってほしい。」という意識や葛藤が見られる現状である。

本単元『大観の未来つなぎ隊!～防災減災について考え伝えよう～』は、探究課題を「災害から自他の命を守ること」と設定し、過去の災害を風化させることなく、今後起こりうる災害への正しい知識を習得し、自他の命を守ろうとする思いを高め、主体的に行動できることをねらいとしている。まず、専門家に大観の課題を聞き、防災の視点で校区を回る。その中で、大観校区の地理的状况に目を向け、防災減災について、まだまだ無知な自分を知る。そして、阪神淡路大震災を体験された高齢者にインタビューをしたり、被災地に足を運ばれた経験のある明石市安全対策室や県立舞子高校環境防災科の生徒から体験談を聞いたり、映像等を見たりすることで、より正確な情報を収集し、深まりのある調べ学習の積み上げが期待できる。単元終盤には、防災減災に対する個々の思いや考えを大観のまちの方々へ伝達する会をもつ。この時間は、自分や家族、地域の人等、児童の発信を見聞きした一人一人の防災減災への意識を高め、安全安心なまちの未来を創造する機会となることが期待できる。これらを通して、自分が今後どのように地域の一員として、まちづくりに関わっていくのかを考えるきっかけにもなる単元である。

指導に当たって、今年度もコロナ禍において学習を進めなければならぬ状況である。単元全体を通して、計画の変更等があり得ることを、児童と共通理解し展開できるようにする。「つかむ」段階では、出会った高齢者の話を想起するために学習の足跡を活用したり、探究カレンダーに調べる内容を記入したりすることで、見通しをもって活動できるようにする。「もとめる①」段階では、児童は、課題を追究していくなかで、図書資料やインターネットだけでは、災害から命を守るための防災や減災の知識が十分に解決できないことに気付くことが予想される。そこで、正確な情報と出あえるように、専門家（明石市総務局総合安全対策室）との連携を探しておく。また、大観のまちを防災減災の視点で回ることのできた地理的特徴と、専門家から得た知識を関連付け、確かな知識へと導けるようにする。児童は、まちの3人に1人を高齢者が占めているという現状と地理的特徴を関連付けることで、大観のまちの課題である「災害時の避難の難しさ」に気付くだろう。それでも、高齢者を助けたいという思いを強くすることが予想されるため、自分の命は自分で守ること（自助）ができて、はじめて共助であることをおさえるようにしたい。「広げる・深める①」段階では、「大観のまちに住む方に、伝える内容を考えよう!」ということが児童の課題となるだろう。インタビュー時の発言や写真を活用することで、これまで児童がふれ合ってきた地域の方々に寄り添った気持ちで考えられるようにする。「もとめる②」段階では、実際に被災地でボランティア活動をする等、防災減災について学習している県立舞子高校環境防災科の生徒からの助言を受ける機会を設ける。その中で、「自助（自分の命は自分で守る）」の重要性への気付きに繋がれるようにする。「広げる・深める②」段階では、「大観のまちに住む方に、避難経路・避難場所・防災グッズを伝える方法を考えよう!」という課題について考え合う時間とする。児童から出される伝達方法のそれぞれの効果を整理して、「これで、わかりやすく伝わるだろうか」等と吟味を促すことで、思いや願いを伴った考えを引き出したい。「もとめる③」段階では、できるだけ分かりやすく相手に伝わる発信となるように、児童同士で助言し合う機会を大切にすることを促していく。「まとめる」段階では、他者からの評価を受けることで自信をもち、今後の生き方に活かしていくとともに、ふるさと大観に誇りをもち、未来へつなぐ者としての意欲が高まることを期待している。

【実際】

コロナ禍のため、高齢者へのインタビューや伝達会の実施を断念した。児童と共に計画の見直しを図った結果、お世話になった県立舞子高校生や家族や後輩に向けて、自分の学びを新聞にまとめて伝えることになった。

3. 単元の構想（31時間）

関連教科等の資質・能力	○学習活動 “予想される児童の気付き”	主な評価規準
<p>【社会】 我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う心をもつ。</p> <p>【道徳】 生命尊重</p>	<p>○これまでの総合的な学習を想起し、今年の課題を決める。 “戦争や震災を乗り越えて、今の安心・安全なまちがあるんだ！” “大観は海もあるし、南海トラフ地震による災害が心配だね。” “災害を防ぐための取組を聞いてみたいな。”</p> <p>○課題解決に向けて、見通しやめあてをもつ。 “災害から大観のまちや命を守っていきたい。” “4年生のころにもお世話になったおじいさんやおばあさん、後輩達に災害から命を守る取組を伝えよう。”</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>大観のおおぞら 未来つなぎ隊 ～防災減災について考え伝えよう～</p> </div>	<p>課題解決に向けた見通しや、自分に付きたい力のイメージを書き表している。</p> <p><思・判・表></p>
<p>【国語】 相手や目的に応じて、理由や事例を挙げながら、筋道を立て話すことができる。</p> <p>互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合える。</p> <p>【理科】 土地は火山噴火や地震により変化することを理解する。</p> <p>【道徳】 家族愛 家庭生活の充実</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>防災減災についての情報を集めよう①</p> </div> <p>○図書資料や新聞、インターネットで調べる。 “南海トラフ地震は、大変な被害が予想されているんだ。” “大観のまちの被害について専門家に詳しく聞いてみたいな。”</p> <p>○安全対策室の人から話を聞く。 “大観のまちも大きな被害を受けるんだ。” “実際にまちを防災の視点で回ってみよう。”</p> <p>○大観校区を防災減災の視点で回る。 “防潮堤があるけど川もあるので災害時にはやっぱり危険だね。” “高齢者の方は、どう思われているのだろう。”</p> <p>○高齢者に防災減災についてインタビューをする。 “お身体の調子の悪い人もおられたよ。”</p> <p>○集めた情報を整理する。 “どうしたら、まちの人の防災減災の意識を上げられるかな。”</p>	<p>情報を収集・選択したり、吟味したりして、今後想定される自然災害、防災減災についての事実と感想、意見を区別して表現する。</p> <p><思・判・表></p> <p>課題解決に向けて互いに話したり、聞いたりして考えを深める。</p> <p><主></p>
<p>【国語】 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝え合う内容を検討する。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>大観のまちに住む方に伝える内容を考えよう！</p> </div> <p>○課題について出し合う。 “逃げ方、逃げ場所、集合場所を決めることが大切だ。” “避難訓練に参加するのは大事だよ。” “一日一回、心構えを確認しよう。” “防災グッズを準備しておくことは絶対に伝えたい。”</p> <p>○各学級での提案をもとに、次の活動を見通す。 “手紙やご自宅を訪ねて近所の高齢者に会っておこうよ。” “コロナ禍だから、直接は会うのは避けよう。” “みんなで助かりたい！その気持ちを伝えたいわ。”</p>	<p>高齢者にとって必要な防災減災について考えることができる。</p> <p><思・判・表></p>

<p>【国語】 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができる。</p>	<p>もとめ ② 6 H</p>	<p style="text-align: center;">防災減災についての情報を集めよう②</p> <p>○図書資料や新聞、インターネットで調べる。 “避難所生活や防災グッズについて、詳しく調べていくわ。” “専門家や防災の学習をしている人に、話を聞いてもらいたい。”</p> <p>○舞子高校環境防災科の生徒から助言を受ける。【リモート】 “具体的な体験を教えてくださいわ。被災地の状況は想像以上…” “私は、「自分は大丈夫！」って、どこかで油断しているわ。” “まず、自分が自分を守らないと、人を助けるなんて無理だ。” “自分で率先して避難することを必ず伝えよう。”</p>	<p>自助、共助について高齢者に必要な情報を選択し分析し、発信する。 ＜思・判・表＞</p> <p>発信に向けて、互いの考えを話したり聞いたりしている。＜主＞</p>
<p>【国語】 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する。</p>	<p>広げ ・ 深め ② 2 H</p>	<p style="text-align: center;">大観のまちに住む方に、避難経路・避難場所・防災グッズを伝える方法を考えよう！</p> <p>○課題について話し合う。 “1学期同様に新聞にまとめて伝えてはどうかね。” “役割分担して、最後に防災減災の本にするのはどうかしら。” “何度も見て読み返せるものにするのは決まりだね。”</p> <p>○制作物を作る上で大切なことを考える。 “「自分は大丈夫！」という思いを絶対に伝えるために…” “これで、本当にわかりやすく伝わるかな。” “自助の大切さを必ず書き記そうね。” “僕らが説明するだけじゃ足りない気がする。”</p> <p>○各学級の提案をもとに、次の活動を見通す。 “明日から、〇〇づくりを進めていくぞ！”</p>	<p>目的を明らかにして、話し合うことができる。 ＜思・判・表＞</p>
<p>【国語】 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。</p>	<p>もとめ ③ 4 H</p>	<p style="text-align: center;">災害から命を守る取組を伝えよう</p> <p>○伝えるための計画を立てて準備し実行する。 “避難訓練に出られなかった人に手紙で学んだことを伝えるわ。” “私は、新聞に載せる内容を絞り込むわ。” “もう一度、避難グッズを集め直すわ。”</p> <p>○活動を振り返る。 “おうちの人にも話したいって言ってくれたね。” “私も、家族ともっともっと話し合っていくよ。” “伝えたい人に伝えられてよかったわ。”</p>	<p>学んだことをさらに広めるために、相手に伝わる内容や方法を考え、発信する。 ＜思・判・表＞</p> <p>互いの考えを話したり聞いたりしながら、計画実行している。＜主＞</p>

<p>【道徳】 よりよく生きる喜び</p>	<p>ま と め る 2 H</p>	<p>○活動全体を振り返り、学んだことを伝え合う。 ○自分自身の学びを振り返り、作文する。 “これからも防災減災について学び、いのちを大切にしていきたい。” “大観の人とのつながりや助け合いを大切にしていきたい。” “自分が生きる大観のまちの未来を考え続けていきたい。”</p>	<p>自助、共助の必要性を理解する。 ＜知・技＞</p> <p>活動全体を振り返り、自分の生き方を見つめている。 ＜主＞</p>
---------------------------	--	---	--

4. 本時の学習（16／31）

（1）目標

○大観に住む方にとって、どのような防災減災の内容が必要であるかを考えることができる。

（2）展開

児童の活動 ・予想される児童の気付き	○指導上の留意点 ☆評価規準	備考
1. 前時の学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。	○学習課題や自己評価基準を設定して、主体的に学べるようにする。	<全体>
大観のまちに住む方に伝える内容を考えよう！		
2. 伝える内容を出し合う。 ・地震や津波の恐ろしさ。 ・避難経路を確認することを…。 ・防災グッズを実際に見てもらいたいわ。	○総合ノートを見直すなど、調べたことを具体的に話すように促す。 ○4年生の頃をきっかけに出会ってきた高齢者の写真を提示し、相手を常に思い浮かべながら、思考できるようにする。 ○伝えたい内容を付箋に書いて可視化することで自他の関心を比べて考えられるようにする。 ○出てきた考えを表に整理し、3. の展開で活用できるようにする。	<個人> 総合ノート 写真資料 付箋
3. 出された内容について話し合う。 ・地震は急に起こる。早く物の準備を伝えないと…。 ・一度は避難所生活の映像を流して、悲惨な状況を知ってもらいたいし…。 ・心の準備をしておくことが大事って言いたい。 ・避難経路も大切だけど、まず、自分が助からないといけなから。逃げ方や身の守り方は欠かせないね。	○グループで交流する時間を持ち、自分の考えを整理し、もてるようにする。 ○出てきた考えに関連する写真などを提示し、より具体的に各内容の必要性を考えられるようにする。 ○自助や共助に関係する発言を捉え、全体に問い返し、自助への視点を内容に反映できるようにする。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">場合によって、「欠かせない内容は」と問いかけ、順序付ける視点を与え、思考の一助とする。</div> ☆大観のまちに住む方に必要な内容かどうかを判断することができたか。	<個人> ↓↑ <グループ> ↓ <全体>
4. 学習を振り返る。 ・次は、まず私達の決めたことを2組に伝えることだね。 ・私たちの考えていることが、実際に役立つものなのか、専門の人に尋ねてみたいわ。	○次時は、活動するための計画を学年で話し合うことを確認する。	<個人> 総合ノート